

畜産ニュース

◎学校給食に安い牛乳 — 11月から生産過剰の対策に —

農林省では、国産牛乳約20万石をことしの10月から明春にかけて買い上げ、これを1合1円30銭程度の安い値段で学童の学校給食にふりむける計画。これはわが国の牛乳生産量がグングンふえ最近「生産過剰」気味となったので、飲用牛乳の市場を切り開くための対策である。農林省畜産局の話によると、ことしの牛乳生産量は750万石と推定され見込みを20万石も上回りそうだ。このうち約4割が飲用牛乳となり残りは原料牛乳としてミルク、バターなどの加工用に使われる。しかし生産量が多過ぎて乳業者や酪農組合は常時30～40万石分の乳製品ストックをかかえている始末、同省の学校給食用牛乳の構想は20万石を1合当り5円50銭から6円（処理の終わったもの）で買上げる。政府補助約10億円（本年度はとりあえず予備費から5億円支出の予定）を各都道府県に流し、現在学校給食にあてている脱脂粉乳と同じ値段1合1円30銭で学校に買いとらせ、給食用に回す、というもの。大蔵省で予算折衝後、文部厚生両省と給食計画衛生措置を打合わせ11月初めから実施予定。

◎10日から県畜産共進会

県畜産共進会は10日から4日間、高梁市家畜市場で開催された。和牛100頭、乳牛50頭を出品、和牛では1等8頭、2等16頭、3等32頭、牝牛では1等4頭、2等8頭、3等16頭を選び1等の首席には農林大臣賞が贈られた。

◎惣津畜産課長 来月1日頃帰庁の予定

乳牛種牝牛購買のため渡米中の惣津畜産課長は10月11日アメリカを出発、船で帰国される。帰庁は11月1日頃となろう。

◎ジャージー種も参加 — 津山で県並乳牛共進会 —

県北部酪農協組主催、山陽新聞津山支社後援の県北部乳牛共進会は16日津山市小田中家畜市場で開かれた。53頭が参加、とくに今年はジャージー牛16頭も加わり審査委員長、蔵知酪農試験場長らが審査の結果、次のとおり1等賞が決まり県知事賞、山陽新聞社賞などを授与した。式後、蔵知委員長は3年前に比べ、発育体格とも格段の進歩がみられたが、なお運動不足、濃厚飼料に頼りすぎなどのため、足、肩、腰にしまりが足らぬので自給飼料に研究の余地があると注意した。

「第一部」(ホルスタイン子牛) キーン・ウォーカー・ローヤル・アスター号

(真庭 榎原信太郎)

「第二部」(ホルスタイン未經産) インカ・フォーブス・アドマイアー

(勝田 竹内昌一)

「第三部」(ホルスタイン経産) スター・ロメオ・シエル・シエコバ

(住田忠治)

「第四部」(ジャージー種) ファーザー・ビューブランテ

(真庭 万波祐一)

◎和牛「竹の谷蔓牛」共進会

系統和牛竹の谷蔓牛（産地、新見市千屋菅生阿哲郡神郷上刑部）の共進会は13、4両日新見市千屋家畜市場で開かれ、各部1入賞牛に知事賞、竹の谷蔓牛改良組合長賞、阿哲畜連賞が贈られた。成績つぎのとおり。

「第一部」牝12ヶ月未満1等 なかよし号

(菅生 中山梅美)

「第二部」牝12ヶ月以上36ヶ月未満1等 第一かたすけ

(大佐 佐藤喜一)

「第三部」牡16ヶ月未満1等 第三大町号

(大佐 田中虎太郎)

岡山畜産便り1957.10

◎肥育鶏を初出荷 新見から京阪へ400羽

新見市新見、石本養鶏研究所では、県養鶏連の初めての試みとして本年6月肥育鶏ブロイラーの飼育ケースとして同所が飼育していたが、13日、京阪方面と400羽を初出荷した。ヒナ代と1ヶ月の飼料代を個人持ちで2ヶ月分の飼料代を県養鶏連が助成し、約80日間飼育すれば320匁から350匁に肥育し飼料代も1日、1羽2円程度で80日ぐらいで若鶏となり、1羽で8、90円でいどのもうけになるので、農家の副業として有利になることが判った。県養鶏連では販売あっせんも行うことになっている。

◎県選出の国会議員 美作集酪地域を視察

県農林部では16日から3日間県選出の国会議員を迎え県下の農林行政を視察してもらい農業振興に一

役買ってもらうことになったが畜産関係では特にジャージー地域として全国的に優秀な成果を収めつつある蒜山原の酪農状況の視察を行った。

◎備中集約酪農地域指定さる

農林省ではこの程33年度集約酪農地域の指定を発表した。新指定は全国で14地域となっている。

本県関係はつぎの通り。

笠岡市、井原市、総社市、高梁市、浅口郡金光町、鴨方町、寄島町、里庄町、小田郡全域、後月郡全域、上房郡全域、川上郡全域、吉備郡真備町、昭和町